

9月15日 やまもも保育園 公開保育を実施しました

やまもも保育園において、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただき、初めての公開保育を実施しました。

園庭には、大きな木や土山があり、年齢を問わず、水や泥で思いきり遊ぶ子ども達の姿が見られました。また、木製ハウスやその周りではままごと遊び、園庭の隅の方では虫探し…などを楽しむ姿が見られました。広いホールでは、リズム運動をされており、全身を使った活動を楽しんでいました。

普段あまり書くことのない部分指導案（指導計画）を書いて頂いたことで、北野先生から具体的な指導も頂くことができ、参加者にとってもよい機会となりました。また、環境に関しても、より具体的にご指導くださり、今後の方向性も見えてきたように思います。



参加園/校

永福保育園	池内幼稚園
岡田保育園	橋幼稚園
さくら保育園	
平保育園	
タンポポハウス	
なかすじ保育園	
東山保育園	
ルンビニ保育園	
やまもも保育園	
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

それぞれの子どもの興味・関心を見取り、何を準備するとよいのか？どう声をかけるとよいのか？保育者がイメージすることが大事。
 ～北野先生のコメントより～



<土山>

園の真ん中には、大きな土山があり、年齢の小さい子はそこを這い登り、滑って楽しむ姿があり、年齢の大きい子は、竹のといから水を流して遊ぶ姿があり、それぞれ年齢ごとに遊びを楽しんでいました。

【北野先生より】

◎起伏のあるところを登り降りすることで、バランス・重心の移動などの運動能力はあがる。

◎竹のといで水を流す時の角度なのか、速さなのか、どこに興味があり、どんな遊びが展開されるのか？イメージや遊びの見通しを保育者が持つ必要がある。

◎水を運ぶことで運動能力はあがるが、子どもたちが自分で試行錯誤するためには、距離は短い方がよい。

◎環境は、その遊びのねらいや年齢によって変える必要がある。近くにタライを置いてよかった。



<砂場>

砂場では、1, 2歳児の子どもたちが、全身で水や泥の感触を楽しみながら、どろんこ遊びをしていました。陽が当たる乾いた砂、日陰のぬれた砂、ドロドロ、水…砂場の中で、いろいろな感触を五感で感じながら、楽しんでいました。

【北野先生より】

◎ペットボトルに水を入れて遊ぶ子、木を入れている子、ふたで水を入れている子、それぞれの子どもの興味・関心を見取り、何を準備するとよいのか？どう声をかけるとよいのか？保育者がイメージすることが大事。

◎子どもが取りやすい高さや位置に、サイズの違う容器を準備するとよい。

◎1, 2歳児への声かけは、感情を引き出すような言葉や共感の言葉を多くかけるとよい。「いっぱい遊べて楽しかったね」「おもしろいね」「やったー」



<ままごと遊び>

木のすべり台の下でお家ごっこを数人の4歳児が楽しんでいました。料理をしようと子どもがきりかぶを運び、イメージを共有しながら遊んでいました。

【北野先生より】

◎イメージを共有するための環境（テーブル、イス等）や教材（おわん、はし、スプーン、おたま等）があると遊びが広がりやすい。



◎子ども同士が関わりながら遊ぶには、年齢プラス2人のグループが最適である。

◎ごっこ遊びの中で何を育てたいのか？保育者自身が見通しを持ち、意図的に関わるのが大切である。



<園庭環境>

自然を大切にされている園庭には、大きな木や、土山があり、手づくりの棚や切り株が所々に置かれていました。手づくりの棚の中に入って遊ぶ2歳児の微笑ましい姿も見られました。

【北野先生より】

◎作業するための台がほしそうな子がいるので、丸テーブルを増やすと子ども同士も関わって遊びやすい。

◎木があるのがよい。きりかぶの高さがいろいろあるとよい。

◎木製や自然にこだわった環境であることはすばらしい。子どもが使う道具や教材は、物によっては重くなり、扱いにくいこともあるので、考える必要はある。

◎子どもの興味や関心がどこにあるのか？何を準備すれば楽しめるのか？保育者は何に気づいてほしいのか？によって、環境を構成していく必要がある。

公開保育カンファレンス

保育者が行動する時や子どもに声をかける時に、その先のことをよく考える。
～北野先生カンファレンスより～

～北野先生カンファレンスより～

◎たくましく、ダイナミックな子どもたち。自然のものを大切に、全身を使った遊びや五感をおおいに使う遊びをされていた。
◎身体のたくましさ、ダイナミックさは、心のたくましさ、もっとチャレンジしてみよう！気持ちにつながる。

【保育士のかかわり】

◎「○○だね」という共感の言葉や「いっしょに～しよう」という共有の言葉、「どうして～なったのかな」という問いかけの言葉を心がける。

◎保育者は、他者への関心を深めることを意識し、子どもをつなげる声かけをする。○○ちゃんのしていることを○○ちゃんにも伝えることが大切である。

◎全体に子どもがしゃべっていない印象。

◎保育者がものを渡す時、給食に誘う時など、自分の気持ちを添えて子どもに話すように。



◎子どもの行動の先取りをするのではなく、子ども自身が行動

できるように見守ったり、共感したりする。

◎保育者が行動する時や子どもに声をかける時に、その先のことをよく考える。

【環境】

◎前回訪問時の助言をいかして、保育者の手作り本棚ができていたが、子どもの反応はどうだったか？をよく見ておく必要がある。

◎第1段目におく本は、最近興味があったものにするよ。また、表紙が見えるように置く。

◎乳児の保育室の環境は、色・形・音に配慮する。

【指導案】

◎保育は、シナリオ通り（指導案）にすまなくてもよい。子どもの興味関心によってすすめる。

◎活動の起点は子どもからであることが大切。

◎事前に保育者がどれだけ考えているか、指導案中で、「明日、○○ちゃんはどうしたいか？」を考えてみる。

◎指導案は、書けば書くほど楽になり、うまくなる。実践も楽になる。予測して環境

設定することが大事。

◎子どもの姿→ねらい→環境設定、援助→（達成するためにという）視点があるとピックアップしやすい。

【食事】

◎食べる時もその年齢発達を意識する。

◎「早く食べさせたい、いろいろ食べさせたい、行儀よく食べてほしい」保育者の思いや、「食べた、食べなかった」という技術面の言葉がけが多くなりがちである。

◎「おいしいね、楽しいね」と肯定的な言葉をかけ、楽しく食べることを心がける。

◎食べさせることに力入れすぎず、楽しく食べることや、食べ物を知るところを大切にする。

◎気持ちを育てるのが1番大切。食べ方・技術的なことは年齢に応じて伝える。

※今日の保育は楽しかった？子どもが楽しめるような、子どもが楽しみを見つけるような保育に。

ドキュメンテーション研修

【グループとドキュメンテーション】

0、1歳児：「感触あそび」うみべのもり保育所

2歳児：「だんごむし」平保育園

3歳児：「色水遊び」中保育所

4、5歳児：「ありの観察」平保育園

グループごとに「この遊びのねらいは難しいのではないかな？」「この声かけがきっかけになっている」「結果だけでなく、子ども同士の話し合いの場面を書く方がよい」など、保育を語り合い、お互いにより刺激になりました。

※各年齢ごとにドキュメンテーションを書く上で、また、保育する上で大切なことについて、北野先生からアドバイスもいただきました。

(下記に記載)

各園で書いていただいているドキュメンテーションを元に、担任している年齢ごとのグループに分かれて、グループワークをしました。北野幸子先生と懇話会副会長の溝邊和成先生（兵庫教育大学大学院教授）にも入っていただきました。

【テーマ】

「ドキュメンテーションから見える保育について」

【方法】

ドキュメンテーションを見て、各自、「きっかけ」「遊びの中の学び」「保育者の意図とかかわり」「環境」などの項目の入ったワークシートに記入し、整理したものを発表し合う。



書くことだけでなく、どんな保育をするのか、子どもの事実をみて考える

～北野先生より～

◎ドキュメンテーションは、なぜこの場面を選んだのか、何を伝えたいのが大切であり、箇条書きにしてみるとよい。

◎子どもの事実をとらえて保育する。書くことだけでなく、どんな保育をするのか？子どもの事実をみて考える。

◎子どもがどんな興味を持ち、どんなことしたいのかを見抜くことが大切。

◎発達をわかっていることも重要。先生の願いや意図を持って、教育的援助をすることが、実践につながる。

◎ぜひ、ワークシートを園内の保育を語る場で使ってほしい。

【年齢ごとのドキュメンテーションで大切にしたいこと】

◎0歳・・・発達、居心地、安心、安定、五感（色、形、音）、愛着について伝えると共に、保育者はどういう意図を持っているのかも伝える。

◎2歳・・・発達の段階として、自己主張、自我の時期であることやそのかかわりについて伝える。

◎3歳・・・「なんでもやってみよう」という意欲の多様性や、「できた、できない」の結果ではなく、何に関心をもったのか、何に共感したのかを伝える。



◎4・5歳・・・人とかかわりや共同的に遊ぶ、学ぶ姿を伝える。興味もつたことが、将来の姿につながる。